石川中央都市圏

北国街道探訪マップ

上街道編

石川中央都市圏歴史遺産活用連絡会

はじめに

藩政時代の北国街道は、五街道（東海道・中山道・日光街道・奥州街道・甲州街道）に次いで重要な幹線道路で、現在の滋賀県から長野県を結び、金沢と京都を往来する道を「上街道」、金沢と江戸を往来する道を「下街道」と呼ばれていました。今回の歴史探訪マップは「上街道」沿線の白山市・野々市市・金沢市の街道沿いに残るすぐれた文化財を紹介します。また、北陸地方を東西に貫く主要道路として古代から通っていた北陸道（北国街道）について、時代毎に解説します。本書を手に北国街道の往時の姿を思い巡らす旅に歩いて出かけましょう。

【目 次】

1．北国街道（北陸道）の概説
2．北国街道を歩く（白山市エリア１）
3．北国街道を歩く（白山市エリア２）
4．北国街道を歩く（野々市市エリア）
5．北国街道を歩く（金沢市エリア１）
6．北国街道を歩く（金沢市エリア２）
7．現在の地図上の北国街道１（白山市）
8．現在の地図上の北国街道２（白山市～野々市市）
9．現在の地図上の北国街道３（金沢市）

※表紙上段　『金沢城下図屏風（犀川口町絵図）』江戸時代（19 世紀）福島秀川筆
石川県立歴史博物館蔵
表紙下段　『加越能三箇国絵図　加賀』正保４年（1647）　金沢市立玉川図書館蔵
表紙写真　野々市市本町２丁目に所在する石碑
参考文献　石川県教育委員会 1994　歴史の道調査報告書第１集　『北陸道（北国街道）』

1．北国街道（北陸道）の概説

【古代の概説】

古代の律令国家は、地方との連絡体制を整備するために、都を起点として、東海道･東山道･北陸道･山陽道・山陰道・南海道・西海道の７本の官道（国道）を設置しました。これらは地域の範囲でもあり、また国府をつなぐ道の名称でもありました。

各道には、原則 30 里（約 16km）毎に駅家を置き、駅馬が配備されていました。加賀国では、９世紀には、江沼と能美郡に各２駅、石川郡に１駅、加賀郡に３駅置かれていましたが、10 世紀には朝倉、潮津、安宅、比楽、田上、深見、横山の７駅が知られています。

石川県内の発掘調査では、野々市市三日市Ａ遺跡、金沢市観法寺遺跡、津幡町加茂遺跡で路面幅９m程の直線道路が発見されており、北陸道と推定されています。また、津幡町北中条遺跡からは「深見驛」墨書土器が出土しており、深見駅の候補地といえます。

古代北陸道は、律令国家の弱体化に伴い、11 世紀ころには機能しなくなるようです。

【中世の概説】

11 世紀に直線道路の古代北陸道は衰退しますが、古代を通じて一般に使用された道は中世に引き継がれていきます。石川県内における平安時代末頃からの北陸道は、源平合戦での行軍路や日記による行程から知ることができます。源平盛衰記によれば、越前から熊坂山を越えて加賀に入り、海岸線沿いを北進し、石川郡の藤塚、小河を経て、宮腰（金石）から大野、青崎（粟崎）、室尾（室）、日角見（内日角）と内灘砂丘上を能登へ進む道があったようです。また宮腰から森本、崎田（才田）、大庭（大場）、竹橋、閑野、荒井、津播多（津幡）、井家（井上）を通って倶利伽羅峠に至る河北潟の内側を進む道があり、後者が北陸道本道といえます。これは、木曽義仲が京都へ進軍する際に使用された道でもあり、主に南加賀の海岸沿いの道は「木曽街道」と呼ばれています。梯川河口の安宅には、古代から官橋がかかっており、謡曲「安宅」の舞台となりました。

一方、室町時代には内陸部を通る道が発達します。加賀・越前国境の吉崎から江沼郡の橘に入り、内陸部を進んで加賀三湖の間を抜け、根上から海岸線を北上し、河口付近で湊川（手取川）を越えました。川を越えると内陸部に向かい、石川郡の笠間、宮保、松任から野市（野々市）を通り、米泉、増泉、石坂で犀川を渡り、山崎では浅野川を橋で渡りました。その後は河北郡の浅野、柳橋、太田、竹橋、倶利伽羅を経由して越中へ至ります。近世北国街道の原型となった道筋といえます。

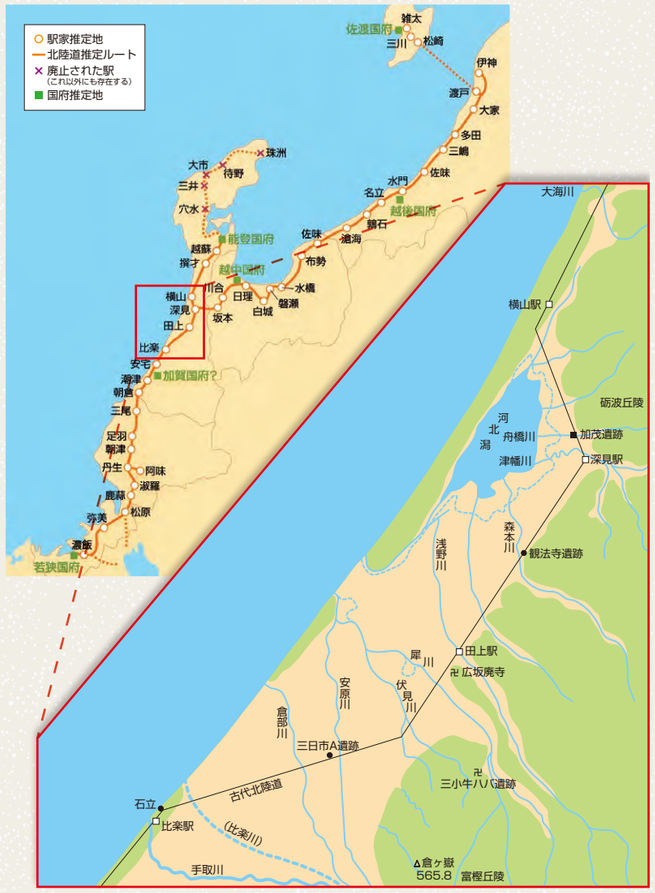


図１　北加賀地域の古代北陸道
（上段　石川県野々市町 2006『野々市町史　通史編』より
下段　津幡町教育委員会 2012『加茂遺跡』一部改変）

図２　加賀地域の中世の北陸道（金沢市 2013『図説 金沢の歴史』より）

【近世の概説】

古代から中世にかけては主に北陸と京都を結ぶ街道でしたが、近世においては、江戸への参勤交代にも利用されるようになり、越後直江津や同高田城下（新潟県上越市）から中山道との分岐点である信濃追分（長野県軽井沢町）への道筋が整備されました。この街道は、佐渡の金を江戸に運ぶためにも使用されたため、幕府から重要視されていました。戦国時代に上杉謙信などが信濃方面へ遠征する際に使用された道筋が元になっているようです。一方、越前から近江や美濃方面にかけては、越前今庄（福井県南越前町）から栃ノ木峠を越えて中山道の近江鳥居本（滋賀県彦根市）もしくは美濃関ケ原（岐阜県関ケ原町）へ至る道筋が中世以来整備されており、北陸から京都、また江戸へと向かう街道として利用されていました。

加賀藩領内では一般に往還道（往還・往来・筋とも）と標記されました。また金沢城下より東方の越中へ向かう道筋を下街道（往還）、西方の越前へ向かう道筋を上街道（往還）とも呼んでいたようです。加賀国内の宿駅としては、橘、大聖寺、動橋、小松、寺井、粟生、水島、源兵衛島、下柏野、荒屋柏野、松任、野々市、金沢、津幡、竹橋があり、伝馬制（適切な間隔で設置された宿駅間を、人馬を交替して運ぶ制度）によって公用の通行に人馬が備えられていました。加賀藩は、宿駅を保護するために様々なお触れを出していたことが文献史料からわかっています。

石川県内において近世の北国街道を示す史跡として、津幡町「北国街道倶利伽羅峠道」、金沢市「松並木の旧下口往還」、能美市「吉光の一里塚」の県指定史跡があり、往時の姿を今に伝えています。

図３　北国街道全ルート
（野々市市観光物産協会刊行パンフレット「北国街道をあるく」より）

2．北国街道を歩く（白山市エリア1）

松任から粟生の間には柏野宿駅と水島宿駅がありました。柏野宿駅は下柏野と荒屋柏野が、水島宿駅は水島と源兵衛嶋が各半月づつ宿駅を務めました。この区間には、宮丸及び水島と源兵島の間に一里塚がありました。いずれの一里塚も、今では塚の高まりや目印となった樹木は確認できず、推定される場所に石碑を建てられています。街道の両側には、松並木が二間（約 3.6m）ごとに植えられていましたが、現在では残っていません。

福留の霞堤

❶福留の霞堤

洪水の常襲地帯であった石川地区周辺では、集落への洪水の流入を防ぐために、各集落の東から南にかけて防水堤を築きました。長さ 447m、高さ 1.8m、馬踏み 5.5m、堤敷 7.3m の規模であったといわれ、大正末期に始まった耕地整理以降順次解体され、現在は福留町地内の共同墓地内にその一部が残っています。

明治天皇御駐輦記念碑

❷明治天皇御駐輦記念碑

芳岡家は内国通運会社支店と人馬継立所の仕事をしていました。明治 11 年（1878）、松任駅を発たれた明治天皇は、この芳岡九平宅に御小休されました。芳岡宅はその後の火災により消失し、その跡地に大正4年（1915）2月6日に記念碑が建てられました。

一里山跡（宮丸町）

❸一里山跡（宮丸町）

宮丸町の一里塚は明治初年まで西側のものが大樹とともに残っていました。しかし大正末年には小丘としてかろうじて形をとどめるに至り、現在では道路の改修によって、その姿はみれません。推定地には石碑が建てられています。※1里＝約 4km

3．北国街道を歩く（白山市エリア2）

江戸時代に幕府の命により全国各地で主要街道が整備されました。加賀藩領内でも北国街道が整備されていき、金沢小松間では、野々市、松任、柏野（水嶋）、粟生（寺井）が宿駅に指定され、旅人の宿泊・休憩場所や物資を販売する商店、荷物を運ぶための人や馬を準備することになりました。松任には公的施設である御旅屋が設けられ、加賀藩主の宿泊所である本陣には笠間屋宅（現青木家）が、大聖寺藩専用の本陣には米屋宅が選ばれました。松任は加賀藩を支えた北国街道の宿場町として栄えていきました。

木戸跡

❹木戸跡

「木戸」とは、町境に建てられた警備用の門のことです。通行人の取り締まりや、治安維持のために設けられていました。日中は解放されていましたが、夜間は閉ざされ、町への出入りが止められていました。また、非常には日中であっても閉鎖されることがありました。

火除地跡（西まねき）

火除地跡（東まねき）

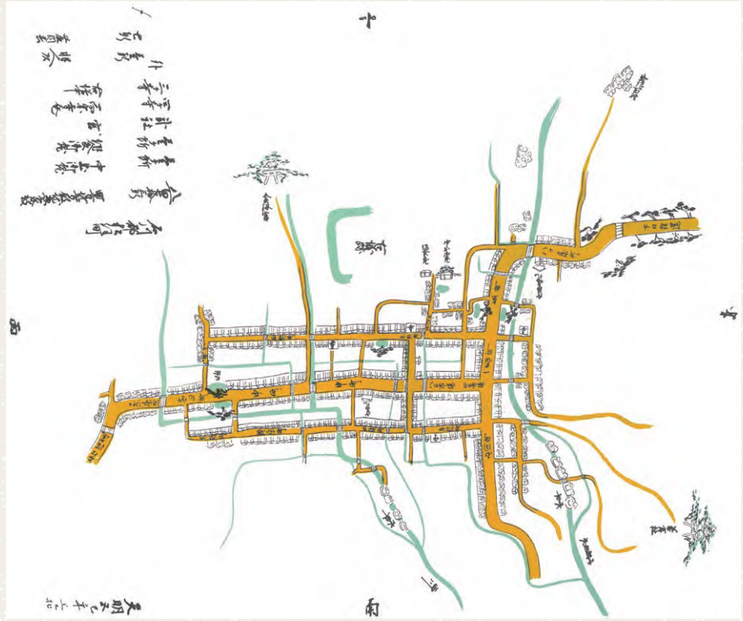
❺⑯火除地跡

火災時の延焼防止のために民家を区切って道の両側に空き地を設け、ため池が作られていました。現在の東一番町の北端に「東まねき」が、中町の西端に「西まねき」がありました。

聖興寺

❻聖興寺（国登録有形文化財）・千代尼塚附同標石（市指定史跡）

慶安 7 年（1648）には徳光町から松任町内に移転しました。千代尼堂と草風庵が平成 19 年（2007）に、本堂や山門などが平成 23 年（2011）に登録文化財に登録されました。千代尼塚は寛政 11 年（1799）に没後 25 回忌を記念して、彼女の遺徳を偲ぶ人達により建立されました。



天明 5 年（1785）松任町絵図（白山市立博物館蔵）

高札場跡

❼高札場跡

「高札」とは、加賀藩や幕府が法令を領民に知らしめるために、木製の板に文書を書いたものです。高札場は町の中心部など人の往来が盛んな場所に設けられ、松任では中町通りの南側に設けられていました。

御旅屋跡

⑧御旅屋跡

主要な宿場には加賀藩の迎賓館的な施設が設けられていました。それが御旅屋です。藩主の参勤交代や鷹狩、巡視の際に宿泊や休憩のために使用されました。宝永７年（1710）に廃止、建物取り壊しとなりました。

町役所跡

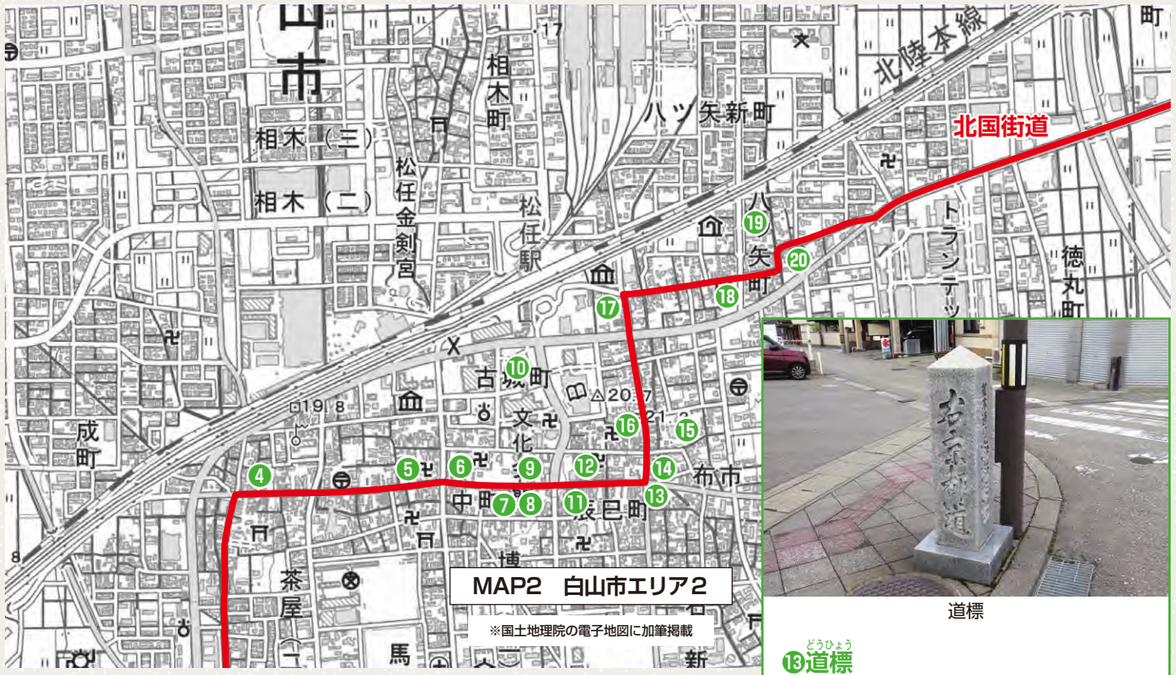
⑨町役所跡

町役所は町政を掌り町役人の詰所でありました。文久絵図によれば現在の中町 48 番地付近にあったとされます。明治 11 年（1878）の明治天皇巡幸の際には行在所が設けられていました。

松任城跡

⑩松任城跡

本丸の跡が現在の城址公園となっています。築城年代は諸説ありますが、平安時代末期の地方豪族「松任氏」の居館がはじまりとする説が有力です。その後、前田利長や丹羽長重らが城主となり、慶長 19 年（1614）に廃城になったと考えられています。



道標

⑬道標

現在の四日市交差点の角には千代尼の句を刻んだ道標が建っていました。石碑には

（右）京都道　（左）金沢道

「道もその　みちにかなふて　物すずし」

「施主多銘省録　首誘　園田氏」

と刻まれています。当時の道標は現在、若宮八幡宮に移転されています。

千代尼居宅跡

⑪千代尼居宅跡

加賀の千代女は元禄 16 年（1703）に福増屋六兵衛の娘として誕生しました。その居宅は現在の八日市町にあったとされ、現在はその位置を示す石碑が建てられています。

松任御伝馬所之跡

⑫伝馬所（問屋）跡

宿駅の主な役割は宿駅ごとに人馬を交替させ運搬させる「伝馬制度の維持」でした。文久絵図によれば、現在の八日市町あたりにあったとされ、標柱で位置を示しています。

延命地蔵尊堂

⑰銅造 地蔵菩薩半跏像

（県指定有形文化財）

白山比咩神社の前身白山寺にあったとされる地蔵院護摩堂本尊であったと伝えられています。台座銘文によれば、康永元年（1342）の作です。

菅原神社本殿

⑱菅原神社本殿

（市指定有形文化財）

もとは天満宮と称し、一里塚南側に位置していましたが、明治維新のおりに社号を改称し、現在地に移転しました。若宮八幡宮本殿を移築したものと言われ、明暦年間に建造されたものと推定されます。

松金馬車鉄道松任駅跡

⑲馬車鉄道跡

明治 37 年（1904）、国道沿いに松任と金沢の野町三丁目を結ぶ馬車鉄道が開通し、始発駅の跡付近にそれを示す石碑が建てられています。大正3年（1914）に電車となり、昭和 30 年に廃止されました。

一里山跡（ハツ矢町）

⑳一里山跡（ハツ矢町）

ハツ矢町の一里塚は中村用水に架かる一里塚橋付近に存在しましたが、明治9年（1876）の官命により廃棄されました。用水を挟んで東側にエノキ1本、西側にケヤキが植えられていたと言われます。

青木家臨川書屋　旧加賀本陣

⑭青木家臨川書屋　旧加賀藩本陣

（市指定有形文化財）

御旅屋廃止後に、本陣として藩主等の宿泊・休憩の御用を勤めた笠間屋六郎右衛門家でありました。現在は「臨川書屋」と称する建物は、天明頃に建てられたものとされ、部屋境に柱を建てるなど古式を残しています。

本誓寺

⑮本誓寺大門 旧加賀藩長家 広式門 附棟札

（市指定有形文化財）

元は加賀藩の重臣長家の屋敷門（広式門）でした。棟札が発見され、寛政 12 年（1800）12 月に着工し、翌享和元年3月竣工したことが判明しました。その後、長屋敷は金沢藩庁、真宗加賀教校となり、本誓寺住職の松本白華が屋敷門を譲り受け、現在地に移築しました。

4．北国街道を歩く（野々市市エリア）

このエリアは、金沢城下町から京都へ向う最初の宿場町。荷物を運ぶために多くの人々や馬を常に準備していました。京都方面へ行く旅人の見送りや、金沢城下町へ入る前に正装するため着替えが行われたとも言われています。野々市の本町地区（旧野々市村）では歴史的町並みや歴史遺産を見ることができます。宿場町の名残として、昭和 40 年代まではいくつもの商店が建ち並んでいました。今でも江戸時代から昭和の戦後まもない頃までの建物や史跡が多く残っています。

木呂川

❶木呂川（ころがわ）・木呂揚場（ころあげば）

木呂川は野々市の村の中を通っており、川の上流は手取川につながります。江戸時代には金沢城下町で使用する薪材を補うため、白山麓からケヤキなどを伐採して手取川から木呂川を使って運ばれました。木材は街道沿いにある「木呂揚場」で集積され、馬を利用して街道を通って城下町まで運ばれました。

木呂川を利用した木材の運搬は、明治 22 年（1889）まで行われていました。

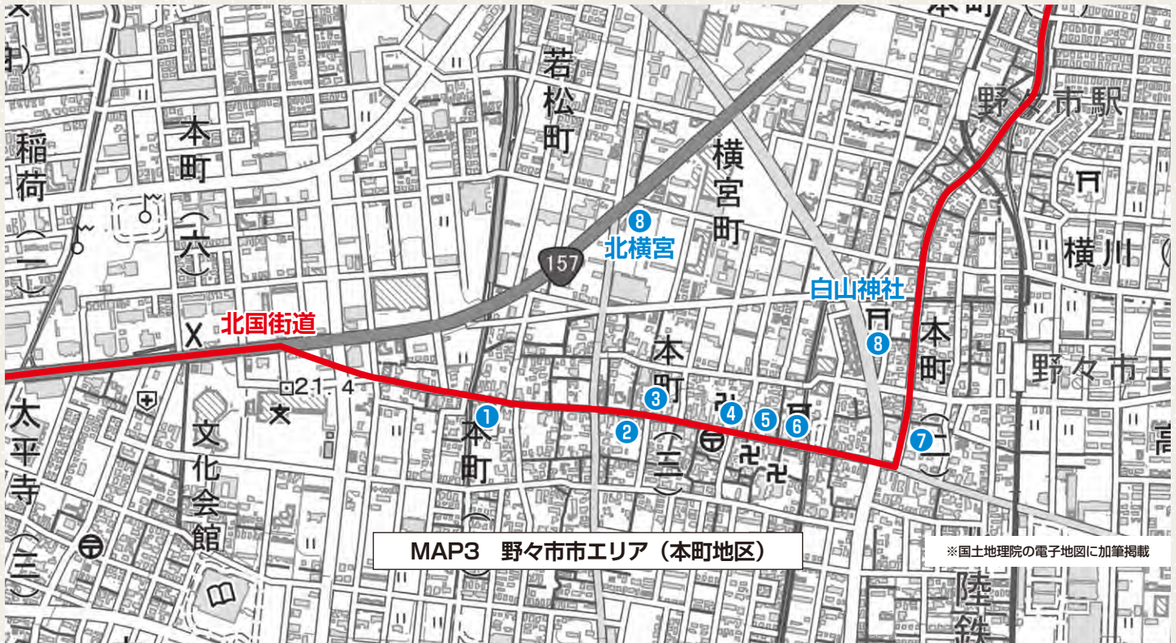
旧魚住家住宅

❷旧魚住家住宅（きゅううおずみけじゅうたく）（野々市市郷土資料館）　市指定文化財

旧魚住家住宅は、安政年間（1850 年頃）、石川郡村井村（むらいむら）（現白山市）に建てられた農村の商家で、明治 33 年（1900）に野々市村内の魚住家に移築されました。昭和 48 年（1973）までは、こんかにしんや肥料等を売る雑貨店として使われており、一度は野々市市白山町に移されましたが、再度現在地に移築され、郷土資料館として民具等を展示しています。

【野々市市郷土資料館のご案内】

・電話番号：076-246-2672　　・料　金：無料
・開館時間：9：00～17：00　　・駐車場：3台
・休 館 日：月曜日、祝日の場合は翌日、年末年始



MAP3　野々市市エリア（本町地区）
※国土地理院の電子地図に加筆掲載

喜多家住宅

❸喜多家住宅（きたけじゅうたく）　国指定重要文化財

喜多家は、江戸時代には菜種油の製造販売、明治時代からは酒造りを行い、昭和 50 年（1975）頃まで営んでいました。

明治 24 年（1891）に野々市で大火がおこり、建物は一部を残して全て焼失しました。現在みられる建物は、江戸時代に建てられた金沢市材木町の建物を移築したものです。喜多家の主屋は、加賀の町家の典型的な特徴を示し、石川県に残る町家の中では最も古いものです。

昭和 46 年（1971）主屋と道具蔵が、令和元年には酒造施設が国の重要文化財に指定されました。

【喜多家住宅のご案内】

・電話番号：076-248-1160　　・休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始
・開館時間：9：00～17：00　　・料　金：大人 400 円、小人 200 円

道路元標

❹道路元標（どうろげんぴょう）

道路元標は路線の起点または経過地を表示する標識のことで、明治 6 年（1873）、政府の要請で設置されました。野々市村の道路元標は大正 9 年（1920）、当時の村役場があった現在地に建てられました。

水毛生家住宅

❺水毛生家住宅（みもうけじゅうたく）　市指定文化財　※非公開

水毛生家は、江戸時代末期の建物を明治 10 年（1877）頃に大きく改築しています。建物は切妻造妻入（きりづまづくりつまいり）の農家型で、街道沿いにみられる正面建物はこの家の最も古い部分で、屋根は江戸時代の板葺きの緩い勾配を残しています。正面の建物より後方の主屋は、明治 10 年頃に建替えられた。可夕亭（かせきてい）とよばれる茶室をはじめ、京風に洗練された数奇屋造りとなっており、家屋の奥に広がる庭園と見事に調和しています。

布市神社

❻－1　布市神社（ぬのいちじんじゃ）（住吉の宮）　市指定文化財

布市神社は、もとは「住吉の宮」と呼ばれ、康平六年（1063）に富樫（とがし）家国（いえくに）が野々市に館を構えたとき、敷地内に造営した社殿と伝えられています。祭神として、加賀国の国司として赴任した富樫忠頼（とがしただより）や学問の神様で有名な菅原道真などが祀られています。また、同神社内にある大公孫樹（おおいちょう）（市指定文化財）は、高さ約 20 m・幹回り約 5 m・樹齢推定約 500 年の銀杏の木です。江戸時代には野々市の名所として知られていました。

大公孫樹

富樫氏先業碑

❻－２　富樫氏先業碑

明治 22 年（1989）に野々市村の水毛生伊余門が、加賀国を治めた武士、富樫氏の功績を後世に伝えるために布市神社の鳥居のそばに建立しました。水毛生家は、富樫氏の家臣の家系と伝えられており、街道沿いに建つ居宅は市の文化財に指定されています（❺）。

石碑には、加賀国の守護であった富樫政親が一向一揆に滅ぼされるまでの約 500 年の事跡が刻まれています。

西町の獅子舞

❻－３　本町の獅子舞・野菜神輿

獅子舞と野菜神輿は、10 月半ばの布市神社の秋祭りに本町の町内を巡行します。

獅子舞は、荒町（本町１丁目）、中町（本町３丁目）、西町（本町４丁目）の３組の獅子が存在します。獅子は大型で、胴体に麻のカヤをかぶせる加賀獅子のスタイルです。

野菜神輿は、その名のとおり神輿本体にレンコンや玉ねぎなどの野菜や、ススキなどの秋草で装飾したもので、全国的に珍しいものです。

旧藤村家住宅

❼旧藤村家住宅（田村家住宅）　国登録有形文化財　※非公開

明治・大正期の実業家、藤村理平の居宅で、明治 11 年（1878）明治天皇の北陸巡幸の際には御小休所となりました。その際に建てられた離れ（座敷）、門、塀は当時のまま今も残っています。明治天皇が休まれた座敷からは、広い縁側のその奥に洗練された庭をながめることができます。

明治後期には田村氏が入居し、昭和 12 年（1937）に離れを残して家屋を建て替えました。改築した主屋は入母屋造妻入をした昭和前期の近代和風建築です。

白山神社

北横宮

❽白山神社・北横宮

白山神社は平安時代に加賀国の国司富樫忠頼が建てたと伝えられています。

北横宮は白山神社から北西約 400 mにある白山神社旧社地です。当初は北横宮に本殿、現白山神社に拝殿がありましたが、本殿と拝殿との距離が長いことなどから、本殿は江戸時代後半に現在の白山神社に遷されました。

5．北国街道を歩く（金沢市エリア１　野々市市～犀川）

このエリアは、野々市市との市境から犀川大橋までの北国街道を歩きます。高橋川沿いから国道 157 号線に重なる部分は道路が拡幅されています。街道としての往時の姿を留めるのは国道から旧道に折れる泉２～４丁目辺りとなります。街道は良好に遺されており、沿道には城下町の町地と郡方の境界を示す上口の松門跡、国造神社、念西寺、泉八幡神社、本浄寺などの神社仏閣の他に江戸時代にまで遡る町家が遺されています。旧道は寺町丘陵に向かって緩やかな登り坂となり国道 157 号線に再び合流します。ここからは道路幅も広く交通量も多いのですが、沿線には森紙店、大蓮寺、神明宮、雨宝院などや寺町寺院群が近くにあり、犀川大橋に向かって緩やかな下り坂となり城下町中心部へと続きます。

北国街道（押野丸木付近）

❶北国街道（本町通り）

高橋川に架橋された宮塚橋のたもとにある北国街道の看板。野々市市本町方面へ続きます。

松門跡（金沢市街地方面に向かう）

❺上口の松門跡

城下町の町地と郡方の境を示すためにこの道の両側に松の木が植えられた地点。現在は民家の建物に看板を設置。

念西寺（奥に本堂あり）

❹千代尼塚

念西寺に宝暦４年（1754）ごろ、52 才の千代女が剃髪後、素園と称して約５年間起居しました。塚は文化８年（1811）37 回忌に建立。

泉八幡神社正面

❻泉八幡神社

文亀３年（1503）加賀の守護、富樫泰高の創建で、正面のイチョウはその記念に植樹されたと伝わります。

国造神社正面

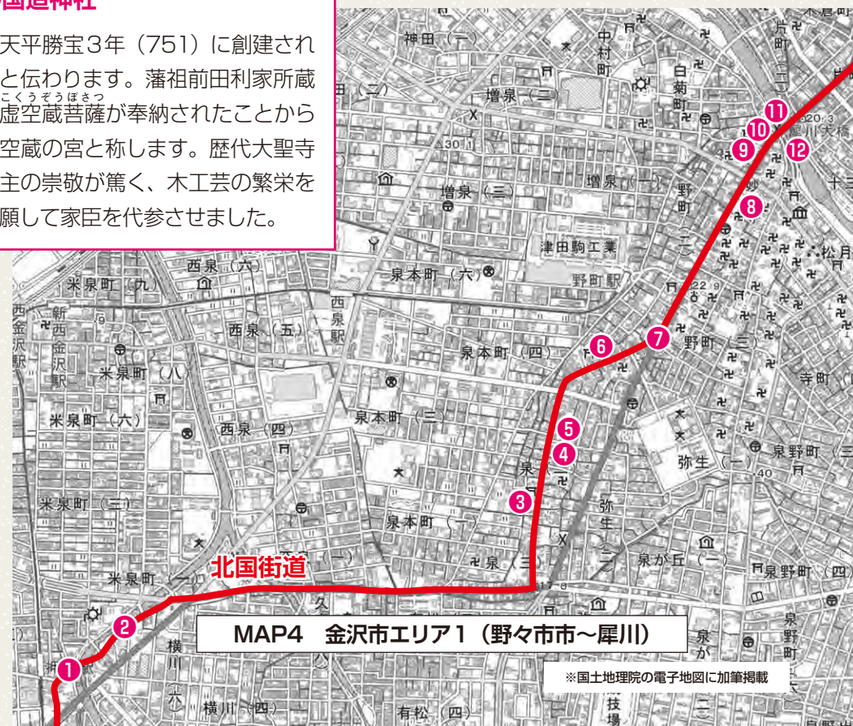
❸国造神社

天平勝宝３年（751）に創建されたと伝わります。藩祖前田利家所蔵の虚空蔵菩薩が奉納されたことから虚空蔵の宮と称します。歴代大聖寺藩主の崇敬が篤く、木工芸の繁栄を祈願して家臣を代参させました。

北国街道（野々市方面に向かう）

❷高橋川沿いを走る北国街道

川沿いには桜並木があり、春には花見を楽しめます。



一里塚跡跡（泉野方面に向かう）

❼上口の一里塚跡

野町と泉野の境界にあった一里塚跡。旧道はここで国道157号線に合流します。現在、北国街道の説明看板が設置されています。

森紙店正面

❽森紙店

建築時期は19世紀前期。金沢旧市街地に残る唯一の板葺き石置き屋根の木造住宅です。金沢市指定保存建造物です。

大蓮寺正面

❾大蓮寺（だいれんじ）

藩祖前田利家の４女豪姫の位牌所。位牌の他に豪姫の念持仏（ねんじぶつ）の聖観音（しょうかんのん）が寺宝として安置されています。境内には豪姫の夫・宇喜多秀家の供養塔があります。

神明宮正面

❿神明宮（しんめいぐう）

野町神明宮、泉野神社とも呼ばれています。もとは卯辰山にありましたが、３代藩主前田利常に現在の社地を与えられました。

まよひ子石（雨宝院境内地内）

⓫まよひ子石

室生犀星ゆかりの真言宗寺院雨宝院の門前にある道標。神明宮祭礼など人混みではぐれた親子の出会いを助ける目印となりました。

犀川大橋（上流から）

⓬犀川大橋

橋長62m、幅員約23m。藩祖前田利家が文禄３年（1594）に架橋したのが始まり。大正８年（1919）には鉄筋コンクリート製となり、大正13年（1924）には橋脚のない橋として現在に至ります。

６．北国街道を歩く（金沢市エリア２　犀川～浅野川）

このエリアは、犀川大橋から浅野川大橋までの北国街道を歩きます。金沢城下町のメインストリートとして発展し、街道は既に大きく拡幅され、袋町付近を除くと往時の姿は余り遺されていません。街道は犀川大橋を渡ると緩やかな下り坂となり、繁華街の片町周辺は犀川の河原であったためか平坦ですが、香林坊橋手前で再び坂道となります。その後は平坦な道が続きますが、枯木橋付近から再び下り坂となり、浅野川大橋へ続きます。金沢城が小立野丘陵先端部に立地しているのに対して城下町は江戸時代初期に、慶長４年（1599）と同15年（慶長６年とする説あり）に河岸段丘の高低差を活かして築かれた東と西の内・外惣構の内側に形成されました。そのため香林坊橋と枯木橋の間は周辺より地形が高くなっています。

宮武屋付近（南から撮影）

⓭宮竹屋跡（みやたけやあと）

金沢を代表する商家の跡地。現在の片町スクランブル交差点を挟（はさ）んで手前に酒造業、奥に薬種商がありました。

香林坊橋欄干（右側は片町方面）

⓮香林坊橋の欄干（こうりんぼうばしらんかん）

西外総構（にしそとそうがまえ）の堀（鞍月用水）に架けられた橋。城下町中心部への玄関口として木戸が設置され橋番人が配置されました。

袋町橋付近
（正面が北国街道、左手に堀は折れる）

⓯袋町橋（ふくろまち）付近

かつてこの地点に西内総構の堀に架橋された北国街道の橋がありました。現在は道路下に暗渠として水路（堀の残り）があります。

町民文化館正面

⓰町民文化館

明治40年（1907）に建てられた土蔵造りの建物。旧金沢貯蓄銀行（北陸銀行の前身）として使われた平屋建てで、一部地下室が設（しつら）えられています。

大手門中町通り（金沢城方面に向かう）

⓱大手門中町通り

北国街道から金沢城の大手門（尾坂門）へ通じる直線道路。周辺には重臣の武家地や富裕な商家がありました。

枯木橋付近（橋場町方面に向かう）

⓲枯木橋（かれきばし）付近

枯木橋は北国街道の東の玄関口として総門が設置され、橋番人を配置し、監視しました。また、同地には明治６年（1873）石川県の道路の基準点がここに定められた石柱「石川県里程元標（いしかわけんりていげんぴょう）」があります。

東内惣構枯木橋詰遺構
（浅野川方面に向かう）

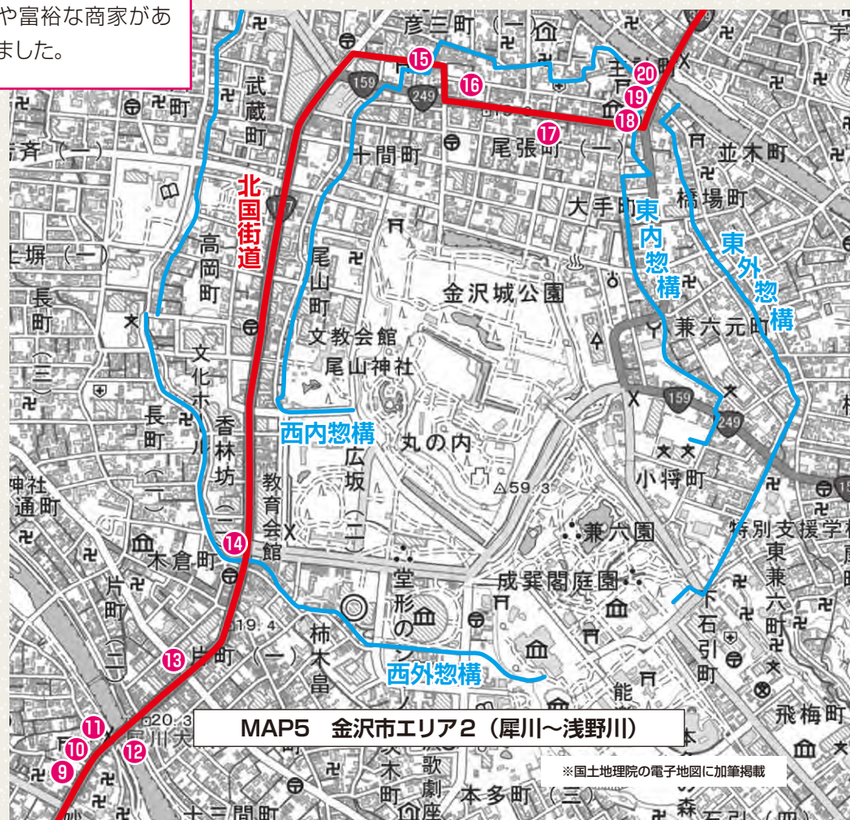
⓳東内惣構跡（ひがしうちそうがまあと）枯木橋詰遺構（かれきばしつめいこう）

18世紀以降に堀の外側に３段階に分けて石垣を築いて堀幅を狭めたことを確認しました。金沢市では当該地点と枯木橋南地点、主計町緑水苑にて惣構跡を整備しています。

浅野川大橋（下流から）

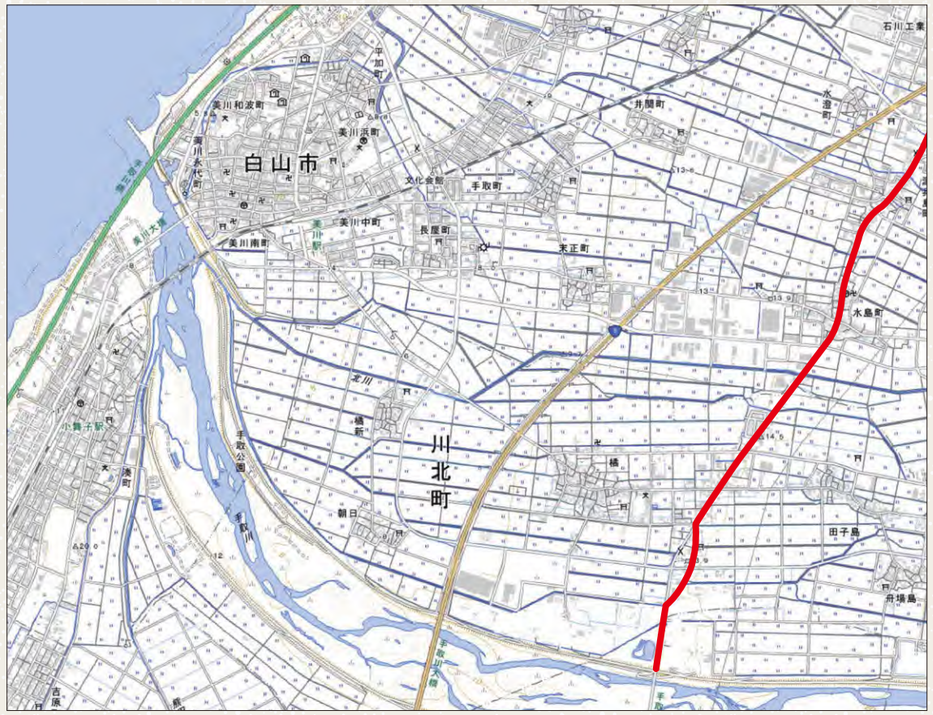
⓴浅野川大橋

橋長約55m、幅員17m。犀川と同じく藩祖前田利家が文禄３年（1594）に架橋したのが始まり、木橋として大正期まで架橋されていましたが、大正11年（1911）には鉄筋コンクリート製のアーチ橋として現在に至ります。



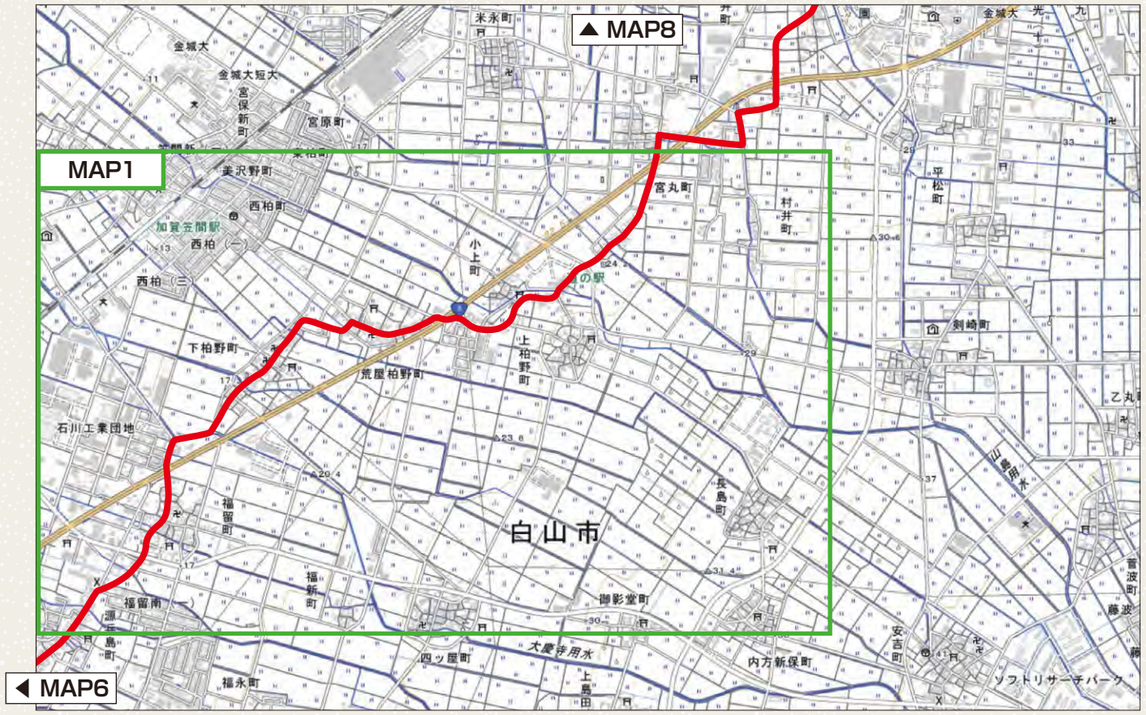
MAP5　金沢市エリア２（犀川～浅野川）
※国土地理院の電子地図に加筆掲載

7．現在の地図上の北国街道１（白山市）



MAP6　白山市エリア１

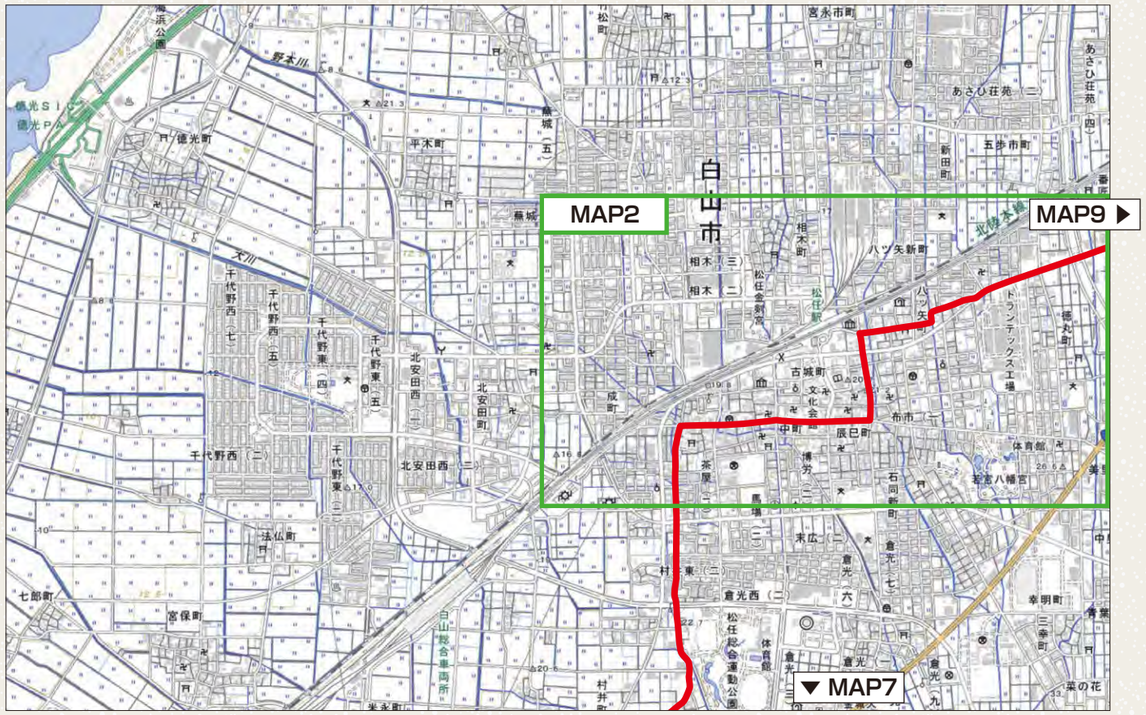
※国土地理院の電子地図に加筆掲載



MAP7　白山市エリア２

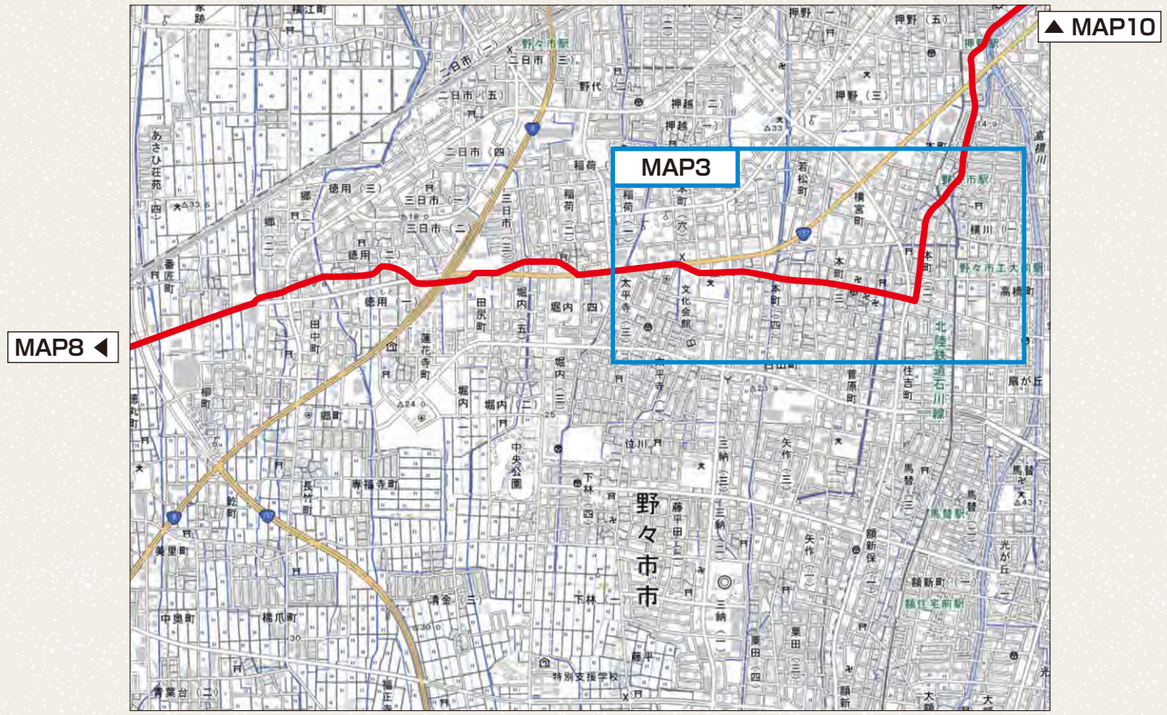
※国土地理院の電子地図に加筆掲載

8．現在の地図上の北国街道２（白山市～野々市市）



MAP8　白山市エリア３

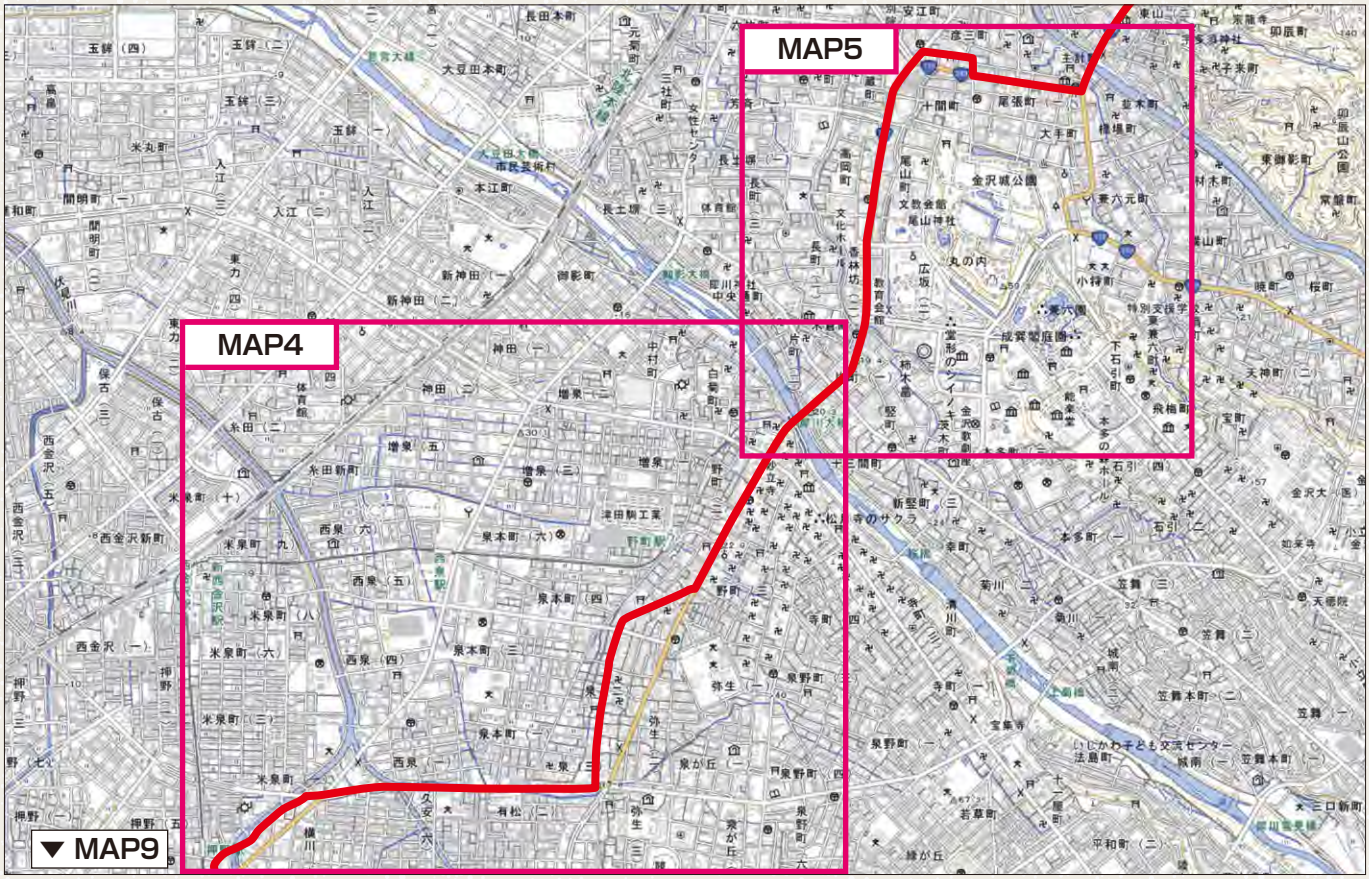
※国土地理院の電子地図に加筆掲載



MAP9　白山市エリア４・野々市市エリア１

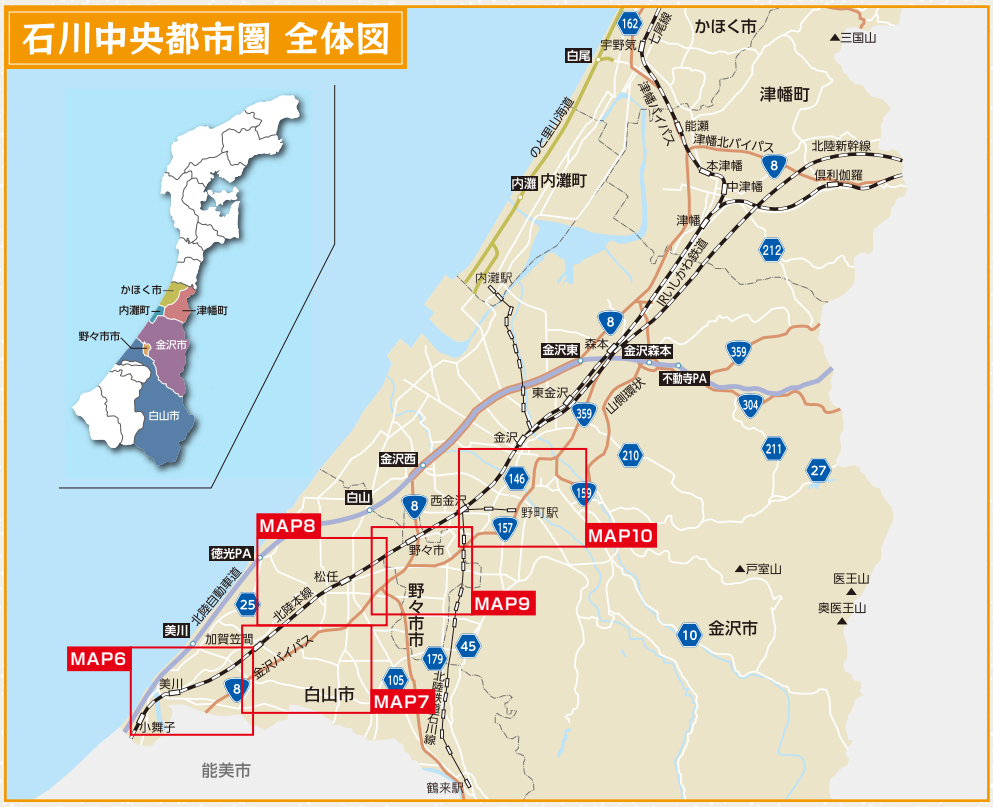
※国土地理院の電子地図に加筆掲載

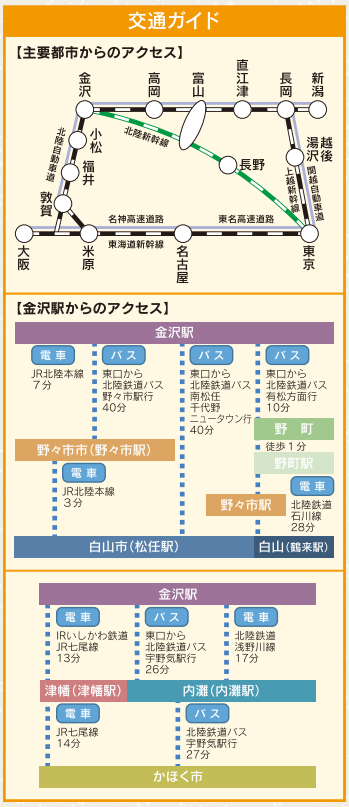
9．現在の地図上の北国街道３（金沢市）



※国土地理院の電子地図に加筆掲載

MAP10　金沢市エリア





※本書は、石川中央都市圏（金沢市、白山市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町）が地域資源の魅力向上に向けて圏域内の歴史遺産の保存活用に連携して取り組む事業として作成したものです。

【協力】石川県立歴史博物館
【発行】金沢市文化財保護課　【編集】石川中央都市圏歴史遺産活用連絡会　【発行日】令和５年３月 31 日発行

【お問い合わせ】金沢市埋蔵文化財センター　金沢市上安原南 60 番地　TEL 076 - 269 - 2451　Fax 076 - 269 - 2452